

商学部における特色ある学部教育の補助「見学調査」 報告書

テーマ：「川越－商家街とまち興し」

科目名：ベーシック演習Ⅱ

担当教員：小田 悠生

調査先：旧第八十五銀行本店本館

調査日：2025年11月9日(日)

参加学生数：1年生 14名 2年生 名 3年生 名 4年生 名

調査の趣旨（目的）

本ベーシック演習では春学期より、世界遺産、歴史の記憶、ツーリズムについて学んできた。秋学期はPBL形式のグループプロジェクトとして、関東各所の歴史について深く学ぶことのできる歴史ツアーを、日本語と英語の両方で企画・立案・実施するという課題に取り組んでいる。今回は「川越－商家街とまち興し」をテーマとしたグループプロジェクトの一環として見学調査を行う。

調査結果

埼玉県川越市の「蔵のまち」として知られる地区で見学調査を行った。1999年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。この地区で最古の蔵造り町家は、1792年建築の大沢家住宅であるが、この地区の特徴は、江戸期、明治・大正、昭和にかけての様々な時代と建築様式の町屋・住宅・商業施設が入り混じっており、それらが全体として「重要伝統的建造物群」として指定されている点にある。たとえば、調査先の一つである旧第八十五銀行本店本館（1918年建設）は、2020年に埼玉りそな銀行川越支店としては閉店したものの、修繕を経て地域振興拠点「りそな コエドテラス」として運営されている。見学調査では、建造物群保存地区として指定されるために個々の商家・企業、地元団体が行なった街並みづくりの取り組みと、指定後の条例に基づいて、伝統的建造物群を保存しながら、時代に即したローカルビジネスを活性化させるための取り組みについてどのように両立させているのかについて調査した。



